

平成 31年度 愛知学泉短期大学シラバス

科目番号	科目名	担当者名	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
52441	幼児と言葉 Infan and Language	児玉 珠美	専門	1	必修	1年前期
科目の概要						
人間にとっての言葉の意義や機能を理解し、乳幼児期における言葉の発達過程や、乳幼児が経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育てるための保育活動内容や支援方法を学ぶ。また、園生活における言葉をめぐる問題についても事例を通して考察し、対応方法を学ぶ。さらに、言葉の発達を促していくための児童文化財についての基礎的な知識を習得する。						
学修内容			到達目標			
① 人間にとっての言葉の意義や機能を理解する。 ② 乳幼児の言葉の発達の過程についての理論を学ぶ。 ③ 乳幼児への語りかけ方であるマザリーズについて学ぶ。 ④ 絵本や物語等、乳幼児が言葉に興味関心を持ち、想像する楽しさを味わえるような児童文化財の基本的な知識について学ぶ。			① 人間にとっての言葉の意義や機能について概説することができる。 ② 乳幼児の言葉の発達の過程を説明することができる。 ③ 乳幼児への語りかけ方であるマザリーズの効果について説明することができる。 ④ 絵本や物語等、乳幼児が言葉に興味関心を持ち、想像する楽しさを味わえるような児童文化財の基本的な知識について説明することができる。			
学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例				
前に踏み出す力	主体性	自分自身の言語活動をみつめなおし、保育者として子どもたちのモデルとなるような言葉を日常的に使う努力をすることができる。				
	働きかけ力	自分の意見の異なる他者に対しても、積極的に語りかけ、対話をしていくことができる。				
	実行力	課題に対し積極的な自主学修をし、できる限りの努力をもって完成させることができる。				
考え抜く力	課題発見力	乳幼児に対する保育者の理想的な言葉かけを実践できるようになるために、何をしていくべきか、常に省察し、課題を見出していく姿勢を持つことができる。				
	計画力	課題等に計画的に取り組み、提出期限を守ることができる。				
	創造力	乳幼児が楽しめる言葉を使った遊び等を考案していくことができる。				
チームで働く力	発信力	授業中に他者が理解しやすいように、自分の意見を整理しながら述べるることができる。				
	傾聴力	授業中は他者の発言に集中し、自分と異なる意見を尊重することができる。				
	柔軟性	グループ討論等において、他者の言動を受け止め、他者を援助していくことができる。				
	状況把握力	グループ討論等において、自分の役割を判断し、的確な言動ができる。				
	規律性	集団で学習する意味を理解し、自己及び他者の人権と学習権利を遵守することができる。				
	ストレスコントロール力	感情的に意見が対立した場合も自身の感情を抑制し、冷静になることができる。				
テキスト及び参考文献						
テキスト:「マザリーズの理論と実践」 内山伊知郎監修 児玉珠美 上野萌子編著 北大路書房 参考文献:「保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領・幼稚園教育要領」 「事例で学ぶ保育内容 言葉」無藤隆監修 高濱裕子編 萌文書林 「ことばの表現力を育む児童文化」川勝泰介他編著 萌文書林						
他科目との関連、資格との関連						
他科目との関連:言語表現・乳児保育・児童文化 資格との関連: 幼稚園教諭、保育士						
学修上の助言			受講生とのルール			
・自らの言葉に対する感覚を豊かにするよう、日常的に実践するよう心がけること。 ・言葉を育てる多くの児童文化財に積極的に触れるよう努力すること。			・私語や勝手な言動をする学生は、授業を受ける権利はないとする。 ・筆記試験・提出物・授業態度(出席状況)等によって評価する。			

【評価方法】

評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント	
筆記試験	60	①	✓	<ul style="list-style-type: none"> ・人間にとっての言葉の意義や機能について説明することができる。 ・乳幼児の言葉の発達の過程を理解し、説明することができる。 ・乳幼児への言葉の語りかけ方であるマザリーズの効果について理解し、説明することができる。 ・園生活における言葉をめぐる問題について客観的、多角的に考察し、自分の意見を述べるすることができる。 ・絵本や物語等、乳幼児が言葉に興味関心を持ち、想像する楽しさを味わうことができる児童文化財の基本的な知識について説明することができる。
		②	✓	
		③	✓	
		④	✓	
		⑤	✓	
小テスト				
レポート	20	①		<ul style="list-style-type: none"> ・授業の振り返りを行い、学修内容をまとめ、レポートとして作成することができる。
		②		
		③		
		④	✓	
		⑤	✓	
成果発表 (口頭・実技)				
作品				
社会人基礎力 (学修態度)	10	①	✓	<ul style="list-style-type: none"> (主体性) ・自分自身の言語活動をみつめなおし、保育者として子どもたちのモデルとなるような言葉を日常的に使う努力をすることができる。 (実行力) ・課題に対し積極的な自主学修をし、できる限りの努力をもって完成させることができる。 (課題発見力) ・乳幼児に対する保育者の理想的な言葉かけを実践できるようになるために何をしていくべきか、常に省察し、課題を見出していく姿勢を持つことができる。 (創造力) ・乳幼児が楽しめる言葉を使った遊び等を考案していくことができる。 (発信力・傾聴力) ・授業中に他者が理解しやすいように、自分の意見を整理しながら述べることができ、他者の発言に集中し、自分と異なる意見を尊重することができる。 (規律性) ・集団で学習する意味を理解し、自己及び他者の人権と学習権利を遵守することができる。
		②	✓	
		③	✓	
		④	✓	
		⑤	✓	
その他	10		グループごとの発表に協力的に関わる等、授業への積極的な参加ができる。	
総合評価 割合	100			

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>レベル S(秀)の基準は、筆記試験、レポート、社会人基礎力の総合計が90点以上とする。</p> <p>レベル A(優)の基準は、筆記試験、レポート、社会人基礎力の総合計が80点以上、90点未満とする。</p>	<p>レベル B(良)の基準は、筆記試験、レポート、社会人基礎力の総合計が70点以上80点未満とする。</p> <p>レベル C(可)の基準は、筆記試験、レポート、社会人基礎力の総合計が60点以上、70点未満とする。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1週 /	オリエンテーションを行う。保育の基本と領域「言葉」のねらいと内容について学ぶ。5領域について学び、領域言葉と他領域との関連性について理解する。	講義	授業の目的・目標・評価方法について理解できる。5領域とは何かを理解し、言葉の他領域との関連について考えることができる。	(予習) 授業シラバスを事前に読み、疑問点及び質問事項を考えておく。	90	傾聴力 主体性 規律性
2週 /	人間にとっての言葉の意義と機能について学ぶ。人間の言葉の獲得へ道筋や発声の仕組みについて学ぶ。	講義 グループ討議 DVD	人間にとっての言葉の意義や機能について理解し、概ね説明することができる。発声の仕組みについて理解できる。	(復習) 人間にとっての言葉の意義や機能について、ノート内容を見直し、確認する。	90	傾聴力 主体性 規律性
3週 /	言葉の発達(新生児の発声機能やコミュニケーションの理解)について学ぶ。	講義 前回の授業内容に関する質疑応答	新生児の発声の機能について知る。言葉以前のコミュニケーションの重要性について理解し、説明することができる。	(復習) テキストp14～24を読みなおし、学修内容を振り返り、理解できていない点を確認する。	90	傾聴力 主体性 規律性
4週 /	言葉の発達(0歳児の言葉獲得に向けての発声段階)について学ぶ。	講義 前回の授業内容に関する質疑応答	生理的な発声から、クーイング、喃語までの発声の段階について理解し、概説することができる。	(復習) 学修内容を振り返り、理解できていない点を確認する。	90	傾聴力 規律性
5週 /	言葉の発達(1～2歳児の言葉の獲得に向けての発声段階)について学ぶ。	講義 前回の授業内容に関する質疑応答	1～2歳児の身体、認知、及び心理発達段階と言葉の発達段階との関連性について理解する。ジャゴンから単語の発音までの過程を理解し、概説することができる。	(予習) テキストp24～27を読み、疑問点等を確認する。 (復習) ノート内容を見直し、理解できていない点を確認する。	90	主体性 傾聴力 規律性
6週 /	0～2歳児への保育者の言かけについて学ぶ。マザリーズの効果について理解する。	講義 DVD 前回の授業内容に関する質疑応答	0歳から2歳までの乳幼児への語りか方としてマザリーズの必要性和効果について理解し、説明することができる。	(予習) テキストp28～42を読み、マザリーズの効果として挙げられている点を確認する。	90	主体性 傾聴力 規律性
7週 /	言葉の発達(3～4歳児の発語の理解と保育者の関わり・環境)について、園生活における事例を通して学ぶ。	講義 グループ討議・発表 前回の授業内容に関する質疑応答	事例を理解し、保育者として客観的かつ子どもの気持ちに寄り添った視点で問題解決をする方法を説明することができる。	(予習) 事前に配布されたプリントの事例を読み、子どもの気持ちや対応方法を自分なりに考え、記入する。	90	実行力 発信力
8週 /	言葉の発達(5～6歳児の発語の理解と保育者の関わり・環境)について、園生活における事例を通して学ぶ。	講義 グループ討議・発表 前回の授業内容に関する質疑応答	事例を通して、5～6歳児の集団活動を通じた言葉の発達や言葉の等について、保育者としての対応方法を身に付けることができる。	(予習) 事前配布プリントの事例について、保育者としての対応方法を自分なりに考え記入する。	90	実行力 発信力

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9週 /	言葉に興味感心を持ち、言葉に対する豊かな感覚を育てる言葉遊び(歌遊び・手遊び等)やごっこ遊びについて学ぶ。	講義 授業内容に関する 質疑応答	発達過程の沿った言葉遊びやごっこ遊びについて理解し、実践に向けて努力することができる。	(予習) 発達過程に合った言葉遊びやごっこ遊びについて調べておく。	90	主体性 傾聴力 規律性
10週 /	対象月齢や年齢に適する言葉遊び(歌遊び・手遊び等)やごっこ遊びをグループごとに考え、発表する。	演習 授業内容に関する 質疑応答	対象年齢に合った言葉遊びやごっこ遊びについての知識を広め、実際にできるよう努力することができる。	(復習) 発表されたごっこ遊びについてまとめ、自分で実践してみよう。	90	働きかけ力 創造性 状況把握力
11週 /	自己紹介及び朝の挨拶から遊びへ一連の流れを指導案にまとめ、発表する。 教員及び学生による他者評価をし、本人にフィードバックする。	演習 教員及び学生相互による評価を通してのフィードバック	集団の前での挨拶や遊びへの誘導の言葉かけについて立案し、実践することができる。	(予習) 挨拶から遊びに繋げる言葉かけを立案し、練習する。	90	働きかけ力 創造性 状況把握力
12週 /	言葉を育てる児童文財について学ぶ。発達過程ごとにグループに分け、図書館資料やインターネット等を活用し、児童文化について調べる。	講義 グループワーク DVD	対象クラスの月齢を設定し、発達過程に合った言葉の発達を促す遊びや児童文化財を考え、グループ討議に積極的に参加することができる。	(予習) 対象クラスの月齢と、発達過程の特徴について、調べてまとめておく。	90	働きかけ力 創造性 状況把握力
13週 /	児童文化財についての調査成果や保育活動への導入方法等について、グループごとに発表する。自己評価及びグループ内での学生相互による評価をする。	演習 グループ発表 学生の自己、他者評価活動	協働意識を持って、グループ発表ができる。他者の意見を謙虚に受け止め、グループワークでの自己コントロール能力を持つことができる。	(予習) グループ討議に自分なりの意見を述べるように、保育計画を立てておく。	90	働きかけ力 創造性 状況把握力
14週 /	児童文化財についての調査成果や保育活動への導入方法等について、グループごとに発表する。自己評価及びグループ内での学生相互による評価をする。	演習 グループ発表 学生の自己、他者評価活動	発表に際し、公平は役割分担になるよう、協働メンバーへの配慮等ができる。他グループの発表に敬意を持って向き合うことができる。	(復習) グループワーク及び発表等について振り返りシートに記入し、自己の取り組みを省察する。	90	実行力 傾聴力
15週 /	授業の振り返りを通して、今後の課題を明らかにし、課題解決に向けて具体的な学修計画を立てる。	講義	授業内容を振り返り、今後の課題を見出すことができる。さらに、課題解決のための具体的な方法を考えることができる。	(予習) 授業ノートやプリント等に目を通して、学びが不十分なところを確認しておく。	90	課題発見力 計画力

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
ストレスコントロール力